

めまいの診断

医師がめまいの患者さんを診る時は、めまいはもう治まっていることが多い。だから、診断する時は、患者さんのお話が頼りになる。

66歳のK子さん。「昨日から、ひどいめまいがする。頭の血管が詰まったかっ」と、まるでパニックだ。そのめまいは、「グルグル回るのかっ」「フワフワするのかわかんないのかっ」「心臓がめまいた」と繰り返すだけである。こころを聞く、心臓を叩く自分の体が回るような「回転性めまい」のようである。となれば、耳の病気の「末梢性めまい」なのだろうか？

だが、回転性めまいでも、脳の病気の「中枢性めまい」といってもあまり聞きなれない。めまいがどのような状況で起き、どれくらい続いたかを聞き出さなければならぬ。起き上がりや寝がえりなど、何らかの誘因でめまいが起き、30秒程度の短いものなら末梢性めまいだ。もしも、めまいが数分以上、何時間も続くようなら脳の病気が否定できない。だが、K子さんの返答は不確かである。

もちろん、なんらかの脳の症状でもあれば診断は容易だ。でも、患者さんといっしょの

は、誘導尋問に弱く、こころがぬる。K子さんも、「ふらふらして歩けなかった。そのころ、めまいが回らなかったかも」と答えるではないか。それが本当なら、中枢性のめまいは否定できない。で、MRI（磁気共鳴画像）とMRA（磁気共鳴血管画像）の検査をする。が、異常は特定できなかった。めまいの原因は、はっきりしないままである。

めまいの診断は難しい。多くのめまいは、末梢性めまいとして治療されている。が、実は、重大な脳の病気が隠れているかもしれないのだ。めまいがしたら、その症状と経過を冷静に把握して、メモなどしておくことを勧める。ワッシーのようなヤブ医者でも診断力が格段に上がる。

（石黒修三 | いしほろくろ | ニック・脳神経外科医 | 12/12 北國新聞掲載）